

読書推進運動

公益社団法人
読書推進運動協議会
〒101-0051
東京都千代田区神田神保町1-32
出版クラブビル6階
TEL 03(5244)5270
FAX 03(5244)5271
発行人 佐々木 泰
編集人 片岡 伸子
定価 60円
会員の購読料は
会費の中に含まれる

No.694

- ★「読書週間」ポスター完成！(2頁)
- ★「2023年度 全国読書グループ総覧」訂正 (7頁)



絵本作家
テルミ編集長

スギヤマカナヨ

「読書週間」によせて

いろいろな人といろいろなことばで、
みんな一緒に「いちにのさん！」

「いつか、いろんな子が一緒に楽しめる本を作りたいなあ」出会って34年になる編集者Yさんと、顔を合わせるたびに話していました。「いろんな子」はどんな子か、見えない子と聞こえない子は一緒に本を楽しむことはできるのか、考え出すとそれは絵空事のように思えました。

えさせられることが多々あると同時に、いろんな子が一緒に楽しめる本への思いと構想がふくらんでいきました。そんなとき、「点字つきのさわる絵本を作りませんか」手話の絵本、作ってみました。声がかかり、「てんじつきさわるえほんぼうけんしよう！」(偕成社)を刊行しました。より多くの子に楽しんでもらえるように音声データもつけました。同時進行していた手話絵本シリーズの1巻『みんなであいうえお』(あすなる書房)は、あいうえおをひらがな、カタカナ、ローマ字、指文字、口形、点字で表現し、テキストとイラストのデータ、手話動画を用意しました。そして満を持してYさんから「多言語絵本を作ろう」と声をか

けられたのです。Yさんは以前から多言語の絵本の必要性を訴えていました。2019年施行の読書バリアフリー法の対象の多くは、視覚障害や発達障害などで読書が困難な人。日本語が母語でない子ども(大人も)はとりこぼされていると感じていました。日本語、中国語、ベトナム語、韓国語、フィリピン語、ポルトガル語、英語、ネパール語、スペイン語の9言語で、本に住む0〜1歳の在留外国人の子どもたち約8割を包括できるとのこと。とはいってもイメージするのはテキストばかりの絵本。まずはコミュニケーションツールとして活用してもらうために赤ちゃん絵本を作ることにしました。

意識したのは人種や性差を感じさせない工夫。テキストは楽しくシンプルに。8言語を翻訳してもごちゃごちゃしないようにすること。それを解消したのはデザインでした。テキストをビジュアルの一部にしたことで、絵とことばに躍動感が生まれました。そうしてできた多言語絵本『いちにのさん』(童心社)ですが、重要なのは必要な人たちに届くこと。図書館や保育施設、地域のコミュニティセンターなど、いろんな子どもや大人が集まる場所で活用してもらうことです。この絵本に出会う人の中には9言語以外を母語とする人もいます。そのときは自分のことばを絵本に書き込んでほしいです。音声、触察用のデータ、手話動画もつけました。それでも一緒にほむずかしい子がいると思うし、一緒になくていいと思います。

正解はありませんが、想像をめぐらせ多様に本の可能性にチャレンジしていくことは、小さな喜びにつながると思います。

こころとあたまの、深呼吸

2025・第79回 読書週間

10/27 ~ 11/9



この秋、本の息吹で こころとあたまを満たそう！

「2025 第79回・読書週間」

のポスターが完成、9月中旬より

順次、発送してまいります。現在、

当会ホームページ・公式X（旧

Twitter）にて、ポスター画像を

公開しております。

標語・イラスト募集に応募いた

だいた方、選考委員、デザインを

担当するクウなど、すべての関係

者に感謝いたします。

ポスターは5万3千枚を製作、

全国の小・中・高校、公共図書館、

書店などに配布、掲出をお願いし

ます。出版社、新聞社、テレビ局な

どのマスコミ関係機関には、「読書

週間」趣旨書と運動普及活動の要

請書を同封してお送りします。

今年の標語は、「こころとあた

まの、深呼吸。」です。入選者の

磯辺菜々さん（小学館）は、「め

まぐるしい日常に息が詰まると

き、私は本を開きます。心が震え

ため息をつく。ハツと気がつき

息をのむ。ひと息ついて、まため

くる。そうしてこころとあたまに

酸素が満ちたら、どこまでも遠く

へ泳いでいける気がします」と、

作者のことを述べています。

ポスターイラストは、神奈川県

相模原市の天野美月さんの作品。

「今回の標語を拝見し、『読書は心

の『息継ぎ』なんだ』と感じたら、

こんな光景が浮かびました。みな

さまが少し疲れたら本を広げて、

青空をのんびり渡る飛行機雲を、

のんびり眺めるような心地になれ

たらいいなと思います」と語って

くれました。

じっくり深呼吸するように味わ

う詩や小説、軽く深呼吸をしたら

一気に読めるエッセイやショート

ショート、こんなところで深呼吸

したい！と思う風景の写真集や

画集などとあわせて展示いただい
ても、おもしろいかと思います。
また、読書のペースや本の難易度
を心拍数に例える bpm リーディ
ングとあわせてもよいかも。

本年度も、日本雑誌協会の特別

なご協力をいただき、多くの出版

社の雑誌に告知広告掲載のお願い

をしました。また、電通の協力で

新聞各紙やテレビ・ラジオの情報

番組での紹介を呼びかけます。

読書推進運動協議会ホーム

ページ ([http://www.dokusyo.](http://www.dokusyo.or.jp)

[http://www.dokusyo.](http://www.dokusyo.or.jp)

or.jp) では、ポスター・マーク

のデータ、このページにも使って

いるロゴデータ（別デザインもあ

り）など画像データのほか、図書

館・書店での展示に活用いただけ

るポップ、しおり、ブックカバー

のPDFデータを配布します。昨

年は多くの図書館・書店より展示

の様子をSNSに投稿いただき、

当会からのリポストが追いつか

ず、うれしい悲鳴をあげる事態と

なりました。今年も全力でリポス

トしてまいります。

画像データは印刷用・Web表

示用の2種類のカラーモードを用

意します。広報紙やチラシなどは

印刷用、ホームページやデジタル

サイネージなどはWeb用を、そ

れぞれお選びください。



・イラストレーション／天野美月
・標語／磯辺菜々
・デザイン／間中幸子（クウ）

■「絵本ワールドinふくしま」

久しぶりの郡山開催！ 講演会、おはなし会など楽しい一日

「絵本ワールドinふくしま 2025 絵本と作者と子どもの広場」が8月9日(土)、福島県郡山市の郡山市ミュージカルがくと館で開催された。過去2回は須賀川市での開催だったが、今回2022年以来の郡山開催となった。会場



きむらゆういちさんのサイン会

のミュージカルがくと館は、郡山市役所に隣接し、野球場や陸上競技場も擁する広大な開成山公園にある多目的音楽ホールである。今回も絵本の販売のほか、子どもたちにむけて多彩なコンテンツが実施された。

絵本作家の講演会としては、午前にも実施された。地元で活動する団体のほか、絵本専門誌ゆうくも登場。キャラクター写真撮影会では「コロちゃん」「ぼくは王さま」「やーご」などが登場。いっしょにカメラにおさまる子どもたちをわかせていた。ワークシヨップとしては、図鑑のクラフトづくり作りとして、自動車や動物、昆虫などの8種類のクラフト作り、キャラクター「しずくちゃん」の「しずくの森のなかまをさがそう」なども行われ、さらにワークシヨップが行なわれた部屋では、カプトムシ、オオクワガタなどの



絵本の販売コーナーでは子どもたちが熱心に選んでいた

販売もあった。

なお、8月7日〜9日にかけて郡山市では、第61回「うねめ祭り」が開催されていた。1965年に郡山市と9町村が合併したときに始まったお祭りだそう、地元には伝わる伝説の「采女物語」を主題にしているという。郡山駅前あたりがメイン会場で、音楽や踊りのイベントなどあり、知らずに訪れたものにとっては、すこしばかり驚くような盛況ぶりだった。

市民が一体になることを願って始まったというお祭りと同じタイミングで、長く続いている「絵本ワールドinふくしま」が開催されているのを目にし、歴史ある街で子どもたちが、絵本と直接ふれ、リアルな体験もしていることの意味をあらためて感じた。

■第27回 学校図書館出版賞

テーマを多方面から掘りさげ 子どもたちの学ぶ意欲を刺激する

公益社団法人 全国学校図書館協議会(全国SLA)は、学校図書館向け図書の特長な出版企画に対して出版社を顕彰する「第27回 学校図書館出版賞」を7月1日に発表した。

●第27回 学校図書館出版賞

・学校図書館出版賞

株式会社 国士社

『伝えよう！ 和の文化お茶のひみつ』 国士社編集部／編、伊藤園ほか／監修(全4巻)の刊行

株式会社 小峰書店

『日本の文様すかん』 並木誠士／監修(全5巻)の刊行

株式会社 汐文社

『石のふしぎがわかる！ 岩石・宝石すかん』 清水洋美／著、柴山元彦／監修(全3巻)の刊行

・学校図書館出版賞 特別賞

丸善出版 株式会社

『47都道府県』 当地文化百科』 丸善出版／編(全47巻)の刊行

(学校図書館出版賞大賞は該当なし)

今回の選考対象は、2024年5月〜2025年4月末日に発行

された図書(シリーズの場合は期間内に完結したもの)で、全国SLAの選定図書となったもの。

『伝えよう！ 和の文化お茶のひみつ』は、小学校・中学校・中学生を対象のシリーズ。お茶について、製造過程や歴史・文化、栄養、ことばなど多方面から紹介する。

『日本の文様すかん』の対象は小学校・中学校・高学年。暮らしを彩る文様を「自然」「図形」などモチーフで分類し、こめられた意味や願いを、豊富な図版で紹介する。

『石のふしぎがわかる！ 岩石・宝石すかん』の対象も小学校・高学年。さまざまな岩石の形や色、手ざわりなど特徴を解説し、その成り立ちをイラストで説明。岩石を使った建築物も紹介する。

『47都道府県』当地文化百科』は、中学生・高校生を対象に、47都道府県それぞれの基本データ・歴史・食・営み・風景などを紹介する。

8月8日(金)に、出版クラブホール(東京都千代田区)で第55回学校図書館賞とあわせて、表彰式が行われた。

■第30回 日本絵本賞記念絵本講座

絵本とはなにか? を考え
その魅力を探る講座を開催

公益社団法人 全国学校図書協議会(全国SLA)は、第30回日本絵本賞を記念して、全3回の「絵本講座」を開催する。

講師は、第1回から30年にわたる、日本絵本賞の最終選考委員を務める松本猛さん(美術・絵本評論家、ちひろ美術館常任顧問)。絵本表現の技術や名作の分析なども交えながら、絵を読むとはどういうことか、絵本とはなにか、絵本表現の可能性や絵本の魅力を知り、より深く絵本を味わう。対象は絵本に関わるすべての人だが、なかでも司書教諭や学校司書、教師に絵本の魅力を知ってもらいたいとしている。



講師の松本猛さん

各回80分の講座が予定されています。

第1回は対面形式で9月21日

(日)に開催され、松本さんの著書『絵本とは何か』(岩波書店)の販売・サイン会も行われる。会場は出版クラブビル4階(東京都千代田区)。10月6日(月)より、オンデマンド配信が予定されている。第2回・第3回はオンデマンド配信によるオンライン講座となる。第2回は12月15日(月)〜2026年4月10日(金)、第3回は2026年2月16日(月)〜4月10日(金)の期間で配信予定。

受講には視聴権(第1回は参加費)が必要。第1回(対面講座)は2000円(講座終了後のオンデマンド配信の視聴も可能)、全3回の視聴権は各回2000円で、視聴権+「絵本とは何か」のセットは4500円。全国SLAホームページ(<http://www.jsla.or.jp>)、または左記QRコードより申し込みができる。



「絵本講座」申し込みサイトQRコード

■IBBY会長来日記念講演会

物語を通して平和を築く信念を
いまこそ世界中の子どもたちへ

日本国際児童図書評議会(JIBBY)は、9月3日水、東京都文京区の童心社会議室にて、「IBBY会長来日記念講演会『困難な世界の中で、子どもの本にできること』」を開催した。

国際児童図書評議会(IBBY)会長のバサラット・カズイムさんと、事務局長のカロリーナ・パリエステルさんを招いての講演会とあつて、会場は満席となった。はじめに、JIBBY会長の宇野和美さんが、IBBYが1953年の創設以来、子どもの本を通して国際理解を深め、世界に平和を、



左よりIBBY会長のバサラット・カズイムさん、事務局長のカロリーナ・パリエステルさん

の理念のもと、さまざまな活動を行ってきたことを紹介。

カズイムさんは、パキスタンで1978年から図書館員として活動し、国内のすべての子どもが読書の機会を持つべきの信念で、児童サービスの充実、教員が研修に参加できる環境を作りあげるなど活躍。ラクダ、ヤク、人力車、自転車、バイク、箱などを利用した移動図書館も提供してきた。パリエステルさんはパリ出身で、すぐれた語学力と、上海国際児童図書フェアでの国際交流や絵本コンテスト審査などに携わった経験を活かし、IBBYを支えている。

講演では、現在のIBBY加盟国が86あることを紹介。現在の取り組みとして、「世界のバリエーション」コレクションの選定と普及、「国際子どもの本の日」ポスターの作成、IBBY世界大会とヨーロッパ・アジアなど地域大会の開催、ユネスコの「消滅危機言語」で記された図書と口承文化のコレクションなどが挙げられた。また、危機的な状況にある

講演会後の交流会でのカズイムさんと
広松由希子さん

子どもたちへの読書支援「チルドレン・イン・クライシス」として、ガザ地域への支援活動を紹介。IBBYでは2008年にガザにふたつの子ども図書館を設置したが、現在、どちらも破壊されており、図書館スタッフも7回以上避難したという。そのような中でも、「子ども図書館の司書がコミュニティに物資を届けたり、ピブリオセラピーを開催するなど、本を用いた支援もできた。これからも支援していく」と述べた。また、JIBBYへは、IBBYコレクションカタログの日本語訳の刊行など、その貢献に感謝し、「豊富な経験を活かし、他のIBBY支部へのメンタ的な役割をはたしてほしい」とさらなる期待をよせた。

■日本子どもの本研究会 作品賞・講座

作家、編集者から、絵本づくりの裏側を聞く講座

一般社団法人日本子どもの本研究会は、「第9回 日本子どもの本研究会 作品賞」受賞作と、9月11日に開催する講座「子どもの本の学校 多摩校」の概要を発表した。

●第9回 日本子どもの本研究会 作品賞

- ・『空はみんなのもの』ジャンニ・ロダリー／著、関口英子／訳、荒井良二／絵（ほるぷ出版）
- ・『クジラがしんだら』江口絵理／文、かわさきしゅんいち／絵、藤原義弘／監修（童心社）



作品賞の3作品
左より『空はみんなのもの』『クジラがしんだら』『ルビーの一步』

・『ルビーの一步』私たちがすべての問題」ルビー・ブリッジス／著 千葉茂樹／訳（あすなろ書房）

8月30日(土)には、国立オリンピック記念青少年総合センター（東京都渋谷区）で贈呈式が行われ、関口英子さん、江口絵理さん、かわさきしゅんいちさんと、各出版社の編集者が出席し、一般参加者と児童書のこれからについて意見を交換しあつた。

●子ども本の学校 多摩校（全5回）

・9月27日(土)「絵本でつながる絵本で広がる」創作秘話から子育て、バリアフリーまで」講師「スギヤマカナヨさん（絵本作家）*オンライン参加可能、見逃し配信あり

・10月25日(土)「子どもの本づくり21年目の話」講師「藤田隆広さん（偕成社編集部）*オンライン参加可能、見逃し配信あり
・11月1日(土)「新刊紹介」科学遊びを楽しむ」講師「鈴木浩子さん（日本子どもの本研究会 図書選定委員）」



スギヤマカナヨさんの講演は見逃し配信あり

・11月15日(土)「魔法のつくり方」フアンタジーの森を魔法と歩けば」講師「岩辺泰史さん（教育評論家）」

・11月22日(土)「新刊紹介」子どもたちの読む力を育てるための学校図書館づくり」講師「塚田麻泉さん（小学校学校司書）」

会場はいつでも多摩市立関戸図書館。時間は14時〜16時。参加には事前の申し込みと参加費（各回1000円、全講座通しての参加は4000円）。申し込み方法など詳細は日本子どもの本研究会ホームページ（<https://www.jaschonken.com/>）またはQRコードを参照。



「子どもの本の学校 多摩校」詳細 QRコード

■安曇野ちひろ美術館 秋の展覧会

「読書」に焦点をあてた、展覧会を開催

安曇野ちひろ美術館（長野県松川村）では、「読書週間（10月27日〜11月9日）」を含み、9月5日（金）から11月9日（日）の期間、展覧会「ちひろの本を読む人 描く人」を開催する。

多くの絵本、童話集を手がけたいわさきちひろには、本を読んだり、抱えたりする人を描いた作品も多い。

この展覧会では、ちひろが幼いころに親しんだ絵雑誌『コードモノクニ』に絵を描いた、岡本帰一、初山滋、武井武雄などの資料から、ちひろの画家としての原点を紹介。また、画家修業時代に、キャンバスや画材に囲まれた部屋で本

を読む自身の姿を描いたスケッチも展示される。

ほかに、それまでの読書歴がちひろの絵本づくりにどのように反映されたかを『花の童話集』（童心社）などで、また、ちひろの絵本づくりを『となりきたこ』（至光社）の作品より紹介する。

同館では同時に、「ヒロシマ・トマト 可修展」「ちひろ美術館コレクション」生誕20年 アンデルセンの絵本」も開催される。会期中は、関連講演会やギャラリートークも予定されている。イベント情報は同館ホームページで確認を。
●安曇野ちひろ美術館
<https://chihiro.jp/azumino/>



いわさきちひろ「本を抱える少女」（1970年）

優良読書グループの歩み (9)

2024年度の「読書週間」に際して道府県読書推進運動協議会より推薦され、本会において表彰した全国の優良読書グループの活動報告を掲載いたします。
(順不同)

サークルのいちご

代表者 下坪利都子

青森県八戸市

〈推薦〉
青森県読書推進運動協議会

2004年1月、旧南郷村立図書館(現在の八戸市立南郷図書館)の開館にあわせて、保育士を退職した2名が中心となり会を発足した。南郷図書館の開館を待ちわびていた子どもたちに、本やおはなしの楽しさを伝えたいと、読み聞かせ活動に邁進してきました。

現在は、南郷図書館を活動の拠点として、6人の会員で月1回、おはなし会を開催しています。本が好きな子どもたちも多く、選書にも力が入ります。南郷図書館での開催においては、読み聞かせした本をすぐに借りられるように、南郷図書館の蔵書を中心に選書するように心がけています。また、保護者の参加が多いときは、読み聞

かせに使用した本のほかのシリーズを紹介するほか、市のイベントなどの情報提供も行っています。また、南郷図書館と南郷文化ホールが連携して開催している、「スウィングベリーでおはなし会」に2010年から参加しています。

さらに、2014年11月からは、TSUTAYA八戸ニュータウン店でも毎月1回おはなし会を開催していましたが、コロナ禍での一時休止を経て、2024年6月から活動を再開しています。

この2か所では、南郷図書館でのおはなし会とは異なり、だれにでもわかりやすく楽しい本や、話題になってくる本を選書するほか、手遊びを交えて飽きさせないなど、ふだん読み聞かせに参加する機会が少ない子どもたちへのアプローチを工夫しています。

私たちが読み聞かせて、いちばん大事にしていることは、読み手も楽しむということです。聞き手の反応を見ながら、一緒に楽しむ

ことを心がけています。そのような私たちの様子を見て、読み聞かせをやってみたいという問い合わせも増え、会への入会にも繋がっています。

南郷図書館の職員の方々をはじめ、多くの方々に支えられ、私たちはこれまで20年間活動を継続することができました。この感謝の気持ちを伝えるためにも、今後も活動を続け、子どもたちや保護者の方とともに、本やおはなしを楽しんでいきたいと思っています。

今回の受賞は、今後の活動の励みとなります。ほんとうにありがとうございました。



おはなし会では手遊びも交え、子どもたちと楽しむ

絵本の小部屋

代表者 長田 加苗

高知県高岡郡梶原町
高知県図書館協会
読書推進運動部会
〈推薦〉

読み聞かせボランティア「絵本の小部屋」は子どもたちへの読書支援(ブックスタート)をきっかけに、子どもたちに本と出会う楽しさを知ってもらいたいと賛同の輪が広がり1993年に設立しました。現在10名のメンバーで、認定こども園で週2回、小中一貫校で週1回、福祉施設 図書館で月1回絵本の読み聞かせを中心とした活動を行っています。そのほか、乳児の愛育相談、各地区の集まりなど地域全体に出向き、場の垣根を設けない活動を行っています。

絵本の読み聞かせだけにこだわらず、人形劇、音楽(ギター、バイオリン、オカリナ、キーボードなど)、ブックトーク、手品などメンバーたちの持ち味を活かし、多様な楽しさを取り入れながら、大きく広い世界をもつ絵本の楽しさに繋がっています。2018年に図書館が新設されたことで絵本の幅もより広がりました。同時に、



にぎやかで多様なおはなし会を愉しんでいます!

館内にある子育て支援センターでの読み聞かせが新たに加わり、町内に限らず県外の子どもたちにも子育てと絵本の出会いを繋げる場が増えました。

約30年続けてこられたのは、メンバーと定期的な話しあう時間を作り、改善点・方向性などを話しあい、なにより愉しく活動できるようにしてきた成果だと思えます。ここ数年はLINEを活用し、事務連絡の煩雑さを減らすなど新しいツールを取り入れながら、メンバーが楽しく活動できるよう必要な負担を減らしています。なにより長く続けられているいちばんの秘訣は、喜んでくれる子どもたちの笑顔。その笑顔に元気をもら

いながら、絵本が子どもたちの心の栄養となることを願い活動しています。図書館での絵本の読み聞かせは、「ちいさな子どもから、かつちいさな子どもだった大人の方まで」だれでも楽しく聞いてもらえるようにしています。耳を傾けている子どもも大人も、読んでいるメンバーも楽しい、そんな空間をつくることのできるグループです。

これからは絵本の小部屋の私たち、そして耳を傾けてくれる方々も「愉しく」あることを大切に、長く活動を続けていきたいと思います。

いとまん読み聞かせの会 日々草

代表者 大城むつみ

沖縄県糸満市

〈推薦〉
沖縄県読書推進運動協議会

2004年設立。今年20周年を迎える。市内小中各学校の読み聞かせボランティアが勉強会のために集まったのが始まり。学校の枠を超えて絵本の楽しさを伝えたいというメンバーが集まり設立。

〇運営と組織

代表者1名、副会長1名、会計

市の「平和祈念読み聞かせ会」での「すくぶん」の読誦



〇読書活動の実態

1名、運営委員7名

・糸満市内（小中学校・こども園・児童クラブなど）での読み聞かせ
・糸満市立中央図書館定例おはなし会・特別おはなし会、糸満市イベント「絵本のひろば&子どもげきじょう」協力・出演。糸満市ブックスタート推進員としても活動。
・糸満市生涯学習ボランティアバンクにも登録

・他市町村（八重瀬町立図書館・与那原町立図書館・渡名喜島などで読み聞かせ、島尻bookカフェ企画運営など）

〇読書グループを作り育てるための努力、苦心、喜びなど
・ボランティア活動なので、メン

バーの活動は「無理せずできるときに参加する」とし、おたがい協力しあい、それぞれの立場を思いやる気持ちを大切にしている。子どもたちの「楽しかった」という笑顔に会える喜びは、このうえないご褒美となっている。

〇継続するためのレクリエーションなど
・定期的なお茶会を開き、お勧めの絵本を紹介しあったり、おはなし会のプログラムの作成や練習を行っている。メンバーが子育てや親の介護などで活動を休む時期があっても、近況報告をしあうことでいつでも活動に復帰できるように雰囲気づくりを心がけている。

〇これからの希望・抱負など
・コロナ禍でおはなし会ができない時期が長かったので、地域を中心に「おはなし会」を開催し、子どもたちに読み聞かせを通して読書する喜びを伝えていきたい。また、今後は大人への読み聞かせや、高齢者を対象とした読み聞かせなども行いたい。いつか高齢者施設でおはなし会をするののために「島くとうば」を勉強している。

「2023年度全国読書グループ総覧」

ご指摘いただいた箇所を訂正いたします

公益社団法人 読書推進運動協

議会では、2025年3月に発行

した『2023年度 全国読書グループ総覧』について、訂正が必要箇所のご指摘を、7月末まで受け付けました。お詫び申しあげ、以下のとおり訂正いたします。

【175ページ】
〇東村山市立中央図書館
●子どもの本グループ
「くめがわ電車図書館」
・発足年月
〔誤〕 1967年8月
〔正〕 1967年8月

【275ページ】
〇伊勢市立小俣図書館
●子どもの本・一般の本グループ
「たんぼぼ読書会」
・主な活動場所
〔誤〕 小俣町子育て支援センター、伊勢市立小俣町図書館
〔正〕 小俣子育て支援センター、伊勢市立小俣図書館

【430ページ】
〇基山町立図書館
子どもの本グループ
「菜の花読書会」「きーの読書会」
・グループの種類
〔誤〕 子どもの本グループ
〔正〕 一般の本グループ
（一般の本グループとして集計していることを確認しています）

また、岐阜県恵那市の恵那市中央図書館より、8月1日に追加で10グループのご報告をいただきました。こちらは来月号でご紹介いたします。

【京都市中央図書館】
●子どもの本・一般の本グループ
「京都芸術大学芸術文化情報セン

ターピッコリー」
・代表者氏名
〔誤〕 片上義則
〔正〕 川田学
・主な活動場所
〔誤〕 ピッコリー図書館、京都造形芸術大学内
〔正〕 京都芸術大学芸術文化情報センターピッコリー
・活動内容
〔誤〕 読書会、文庫
〔正〕 文庫

■日書連 読者還元祭

毎年好評の「読者還元祭」が
今年の秋もやってくる!!

日本書店商業組合連合会(日書連)は、「読書週間」期間を含む10月24日(金)から11月21日(金)まで、「秋の読者還元祭 2025」を全国のキャンペーン参加書店で開催する。

この「読者還元祭」は、「読書週間」「本の日」にあわせて実施する。期間中、参加書店にて書籍・雑誌を購入した読者に応募専用サイトのQRコードが入った「キャンペーン」を配布する。賞品は総額3000万円(1800本)。抽選で2000名に図書カードネットギフト5千円分、200名に3000円分、1400名に1000円分が当たる。当選者には12月ごろに直接、図書カードネットギフトメールが送信される。

■親地連 全国交流集会

子どもの本を通し、
今こそ、平和について考えたい!

親子読書地域文庫全国連絡会(親地連)は、「第25回 全国交流集会」すべての子どもに読書の喜びを、平和をあきらめない!子どもたちの未来のために!を、10月4日(土) 国立オリンピック記念青少年センター(東京都渋谷区)で開催する。

記念講演は、朽木祥さん(児童文学作家)の「歌いだしたいよ うな明日」を子どもたちに。

ドで、すべての図書カード取扱店(全国で約6400店)で使用できる。

キャンペーン参加書店には、ポストにも掲出されるので、身近な書店で見かけたらぜひ、「読書還元祭」にご参加を。

キャンペーン参加書店など、「秋の読者還元祭」の詳細は日書連ホームページを参照のこと。

●日書連ホームページ

https://
www.n-sho
ten.jp/



日書連ホームページ QRコード

うです。朽木さんのお話と各分科会から、少しでも明日への結城と力をもらいましょう」と呼びかけている。講演会と分科会「平和」は、小学校高学年からでも参加できる内容なので、お子さんもぜひ、とのこと。

参加には参加費(1000円、18歳未満は無料)と事前申し込みが必要。申し込み方法と詳細は、親地連ホームページ(https://www.yoathen.info/)、またはQRコードを参照。



「全国交流集会」申し込みサイト QRコード

事務局報告(8月)

- ・1日 第30回 日本絵本賞表彰式出席(出版クラブビル)
- ☆5日 野間読書推進賞 選考資料を事業委員に送付
- ☆6日 内閣府サイトに2025年度役員変更届 提出完了
- ☆7日 機関紙「読書推進運動」693号 入稿
- ☆8日 機関紙「読書推進運動」693号 責了
- ・9日 「絵本ワールドinふくしま 2025」たちあい(郡山市)
- ☆12日 15日 事務局閉室
- ☆20日 機関紙「読書推進運動」693号 出来
- ☆21日 第55回 野間読書推進賞 第一次 選考について事務局打ちあわせ
- ☆22日 第55回 野間読書推進賞 第一次 選考事業委員会
- ☆26日 野間読書推進賞 選考資料を選考委員に送付
- ・26日 日本出版クラブ 震災対策室 第5回 運営委員会 出席



読書推進運動協議会 X (旧 Twitter)

●編集部&事務局の
ひとこと

●NHK『100分de名著』8月放送の『人間の大地』(サン・テグジュペリ)。指南役の野崎歓さんの語り口がすばらしく、つい、手元にある堀口大學訳(新潮文庫、タイトルは『人間の土地』)と渋谷豊訳(光文社 古典新訳文庫)を読み返しただけでなく、野崎さんの新訳(岩波文庫『夜間飛行 人間の大地』)まで手に取ってしまいました。

●3つそろえて、最後の一文を比べてみると、もとは同じ文章、文を構成する日本語の単語もそんなに違わないのですが、印象が異なります。「精神の風が、粘土の上を吹いてこそ、はじめて人間は創られる。」(堀口訳)、「精神の風が粘土の上を吹き渡るとき、初めて人間は創造される。」(渋谷訳)、「精神」だけが、その息吹が粘土の上に通うならば、「人間」を創造することができる。「(野崎訳) この違いは、それぞれの訳者が吹かれてきた「精神」の違いからくるのでしょうか。

●本紙で紹介した、IBBY会長の講演会の最後、会場から「飢えと破壊で苦しむガザの子どもたちに、本を通じた支援は有効か」との声がありました。支援するための食糧支援はなによりも大切です。ですが、ただ食糧を与えられるだけではなく、その背後には自分たちを心配している人たちがいることを知り、安心して生きるために世界とどうつながっていくかまでを考える力も得ること、本を通じ「精神」が子どもたちに吹いてはじめて、平和への支援となるのではないかと思います。(伸)